

ケアポート板橋 特養2階

症 例 概 要 90歳代 要介護度4

認知症、2型糖尿病、高血圧、脂質異常症、白内障、胆のう結石

ケアポート板橋 特養2階 (入所 R6年1月～現在)

専業主婦として旦那様の海外赴任に同行。経理の業務をしていましたが、認知症を発症され帰国されています。帰国後は有料老人ホームを転々とされ、令和6年1月にケアポート板橋に入所。入所当初は表情も乏しく、発語もほとんどありませんでした。立位は支えがあれば安定しますが、膝折れやふらつきがあり、付き添いでの短距離歩行のレベル。職員が積極的に関わり、日常生活リハビリを実施することにより、現在は表情が豊かになり発語も増え、歩行能力が向上した事例。

内 容

令和6年1月にケアポート板橋の2階フロアへ車いすにて入所。立ち上がりを試みますが、非常に不安定であり、車椅子対応にて様子観察を行いました。入所当日に作業療法士による歩行状態等の評価を実施すると、「①立つ際に指示が入りにくく、足が滑る。②立てれば立位は安定しており、脇を支えながらなんとか歩ける。③今の状態だと歩行は厳しいが、リハビリをしていけば歩けるようになるかもしれない。④現状、移動は車椅子対応が望ましい。」との評価でした。また声掛けに対しては「うん、うん」と頷かれるもののそれ以上の発語は見られず、表情も固く乏しく感じられました。

フロアにおいて、初めは短距離から歩いて頂き、徐々にその距離を延ばしていく事を目標に設定。翌日より歩行訓練を開始し、定時のトイレ誘導は食堂の席から一番近い居室トイレまで歩行にて移動。膝折れもあり歩行も不安定な為、転倒のリスクを考え、職員2人介助にて対応していききました。毎日の地道なリハビリを重ね、歩行能力も徐々に上がり、膝折れやふらつきも解消。歩行距離も伸びており、1ヵ月後の2月の中旬には、フロアを1周歩行できるまでに歩行能力が回復しました。車椅子の使用を止め、フロア内の移動は1人介助で可能となり、日中は椅子へ移乗し、安定した座位が保てる様になりました。

入所当初は喜怒哀楽等の表情も乏しく、発語もほとんどなく声掛けへの返答も「うん、うん」と頷かれるのみでした。旦那様のお話では本氏と旦那様は大学時代に同じ合唱部に在籍されており、元々歌を唄われるのがお好きとの事でしたので、施設内で実施される「療育音楽クラブ」や「ボランティア演奏会」、また「カラオケ」等の音楽に関する催しに毎回参加して頂くことで、音楽に合わせて手拍子をされたり、手でリズムを取る姿が見受けられる様になり、4月には童謡を唄われる様になりました。

毎週月曜日、旦那様がデイサービス時にご面会され、ご本人に歌を唄ってお聞かせして下さっております。フロアでは歌集を用意して旦那様面会時にお渡しして唄って頂いております。本氏以外の他のご利用者さんも参加されて楽しそうに歌を唄われる事もあり、旦那様の面会を楽しみにされているご利用者の方もおられます。

音楽クラブや旦那様の面会以外でも、トイレ等での移動時（手引き歩行）には職員が積極的に童謡等の歌を唄って、本氏にお聞かせしており、入所当初はリズムに合わせて「うん、うん」とされるだけでしたが、次第に歌に合わせて「ふーん、ふーん」と鼻歌をされたり、6月頃になると「鯉のぼり」「里の秋」等の歌を職員と一緒に歌われるよになられております。また声掛けに対しても「そうなの。」「あら、まあ。」「等の声掛けを理解した返答や笑顔になられる頻度も増えているように感じられ、毎週面会に来られる旦那様も「表情が豊かになった。」と喜ばれておられました。

今回の事例では発語等の認知機能面と身体機能面の両方の向上が見受けられており、職員による積極的な関わりと地道なリハビリが実を結んだ結果と思われ、キラキラ介護賞に相応すると思ひ、推薦させていただきます。